

パク・ヨンスク

朴英淑の白磁

ゲッコ

リー・ウファン

月壺と李禹煥の絵皿展

2008年7月12日[土] 9月15日[月・祝]

平素は当館の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、あつく御礼申し上げます。次回の当館展覧会では「朴英淑の白磁 月壺と李禹煥の絵皿」と題し韓国の現代陶芸を代表する白磁の女性作家、朴英淑(パク・ヨン スク/1947~)の造形世界をご紹介します。つきましては下記の通り概要をご案内申し上げます。

概要

朴英淑は、32歳で朴英淑セラミック・スタジオを設立し、はじめは粉青沙器、やがて白磁大壺へと、朝鮮王朝時代の陶磁への思いを現代に生きる作家として追求してきました。理想の白磁を実現させるために10年余をかけ、土を探し、配合を研究し、試行錯誤をかさねた情熱は並大抵ではありません。近年では、韓国で月壺(げっこ)と称されている大壺を完成させ、その世界観を深めつつあります。

日本の美術館での個展は、本展が最初となります。出品予定の作品は、白磁大壺7点、白磁壺10点、食器70点で、食器のうち10点を数える大皿、陶板は、世界的に著名な美術家、李禹煥(リー・ウファン/1936~)が絵付けをした作品です。

主催 財団法人 菊池美術財団、朴英淑セラミック・スタジオ、日本経済新聞社

協賛 京葉ガス株式会社

会場 菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル

TEL 03-5733-5131 <http://www.musee-tomo.or.jp>

開館時間: 午前11時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで)

休館日: 毎週月曜日(ただし7月21日、9月15日は開館) 7月22日(火)

観覧料: 一般 1,300円 大学生 800円 小・中・高生 500円

未就学児は無料。 障害者手帳をご提示の方、およびその介護者1名は無料となります。

関連行事

記念対談①「朴英淑の白磁を語る」7月12日(土)

チョン ヤンモ

鄭 良謨氏(元韓国国立中央博物館館長)

(聞き手 = 林屋晴三・当館館長)

韓国陶磁史研究の第一人者である鄭良謨氏をお迎えし、長年の友人でもある作家の白磁についてお話いただきます。韓国式のティータイムを楽しみいただけます。

記念対談②「比較論・東洋の白磁」8月23日(土)

リー ウファン

李 禹煥氏(美術作家)

(聞き手 = 林屋晴三)

作家として活躍する李氏をゲストに、東洋の白磁にめぐってお話いただきます。

各回 15:00~16:30 お一人様 3,000円(予約制、観覧料込)

会場 美術館一階 レストラン ウォウ・ラクテ

各回とも定員50名、先着にて受付。事前にお申し込みが必要となります。

連続講演会「白磁の魅力」全3回

専門家の方を講師に、様々な視点からお話いただく連続講座です。

① 7月19日(土) 今井 敦氏(東京国立博物館東洋室長)
「中国の白磁 宋時代を中心に」

② 8月2日(土) 片山 まび氏(東京藝術大学 准教授)
「朝鮮王朝時代の白磁」

③ 8月30日(土) 前田 昭博氏(陶芸家)
「現代の白磁」

各回 15:00~16:30

会場 智美術館展示室

聴講無料(ただし展示観覧料が必要となります)

関連行事の開催につきましては、内容が変更になる場合がございます。詳細はお問合せください。(TEL: 03-5733-5131)

2003年の開館以来、当館では優れた現代陶芸発信の場を目指し、藤本能道、樂吉左衛門など現代を代表する陶芸家をはじめ、杉浦康益、小池頌子など活躍目覚ましい作家にも注目、その活動を紹介すべく個展を開催してまいりました。そしてこの度、国外作家としてはじめて、隣国・韓国で気品ある白磁の制作に心を注ぎ続ける朴英淑(パク・ヨン スク)の作品を展覽いたします。国内はもとより国際的に発表の場を広げる朴氏ですが、代表作である白磁月壺がまとまって日本で公開されるのは初めてとなります。

韓国における白磁の美

私たちの生活空間には現在、日常食器として磁器が溢れていますが、これらが日本で作られるようになったのは17世紀以降、生産技術をもつ朝鮮半島の陶工が九州に渡来してからのことでした。彼の地では、中国の青華(染付)に倣いつつ、既に15世紀前半には「王宮の御器は白磁とする」という記述や、明朝へ白磁を献上した記録があり、非常に完成度の高い製品が残されています。また日本の磁器が色絵の世界へと向かったのとは対比的に、儒教が重んじられた朝鮮王朝では常に、「白の美しさ」を貴ぶ陶磁器文化が展開したのです。朴氏の白磁月壺は現代に生きる陶芸家として、自身に流れる伝統への挑戦だといえましょう。



朴英淑 食器

つ、既に15世紀前半には「王宮の御器は白磁とする」という記述や、明朝へ白磁を献上した記録があり、非常に完成度の高い製品が残されています。また日本の磁器が色絵の世界へと向かったのとは対比的に、儒教が重んじられた朝鮮王朝では常に、「白の美しさ」を貴ぶ陶磁器文化が展開したのです。朴氏の白磁月壺は現代に生きる陶芸家として、自身に流れる伝統への挑戦だといえましょう。

パク ヨン スク

朴英淑 (1947 ~)



パーマネントコレクション

大英博物館(ロンドン、英国) ヒューストン美術館(ヒューストン、米国) ハーバード大学美術館(ケンブリッジ、米国) シアトル美術館(シアトル、米国) サンフランシスコ東洋美術館(サンフランシスコ、米国) ベルギー王立マリモン美術館(マリモン、ベルギー) 国立民俗博物館(ソウル、韓国) 旧総督府官邸(オタワ、カナダ) 在N.Y.大韓民国領事館(N.Y.、米国) Leeum美術館(ソウル、韓国)

「単なる古陶の写しではなく、現在における最上の白を表現したい。」と、朴氏が研鑽を積み、実際に製陶の道を歩み出したのは30代半ば、一人の女性として家族と生活を守りながらのことであり、決して早くはありませんでした。けれど志高く、彼女が目指したのは、現代にあって自分自身が納得できる白、自分の中にある理想の染付磁器を実現しようという



李禹煥 染付皿

試みでした。その為に朴氏は西洋の優れた洋食器や技術、材料までも視野に試作を続け、作品へと結実させるまでに、10年余を費やしました。やがてその試みは世界的にも著名な美術作家・李禹煥(リ・ウーフアン)との出会いを生み、彼女の作品にさらなる大きな魅力をもたらしたのです。

今展では、そうした朴氏の挑戦から生まれた白磁、それに絵付けを施した李氏の絵皿、また近年の展開である白磁大壺などを合わせ、約80点を展覽いたします。両氏により生み出された、美しい白磁月壺と染付の皿や食器を、ぜひご高覧下さい。

今展では、そうした朴氏の挑戦から生まれた白磁、

それに絵付けを施した李氏の絵皿、また近年の展開である白磁大壺などを合わせ、約80点を展覽いたします。両氏により生み出された、美しい白磁月壺と染付の皿や食器を、ぜひご高覧下さい。



朴英淑 白磁大壺 高60.2cm 2007年

- 1979年 韓国の京畿道に、Park Young Sook Ceramic Studio設立
- 1983年 「living porcelain展」 Gallery Korea (N.Y.、アメリカ)
- 1986年 「第11回韓国伝統工芸展」 Hyon-Dae Gallery (ソウル、韓国) にて特別賞受賞。
- 1987年 「第12回韓国伝統工芸展」 Hyon-Dae Gallery (ソウル、韓国) にて特別賞受賞。
- 個展 ギャラリー上田(東京、日本)
- 1991年 「韓国ファインアートギャラリー展」 ギャラリー上田(東京、日本)
- 1993年 「White Ceramics展」 アトリエ ソウル(ソウル、韓国)
- 1995年 個展 Han Art Gallery (台北、台湾)
- 1996年 個展 Han Art Gallery (台北、台湾)
- 1999年 英国女王エリザベス2世が、ソウルの仁寺洞にある朴英淑のアトリエを訪問
- 2000年 個展 ギャラリーうちやま(東京、日本)
- 2002年 ニューヨークにGallery Pakhをオープン
- 個展「White Porcelain Dinnerware」 Gallery Pakh (N.Y.、アメリカ)
- 2003年 「Buncheon展」 Gallery Pakh (ニューヨーク、アメリカ)
- 2006年 展覧会 ハーバード大学美術館(ケンブリッジ、アメリカ)
- 個展「Moon Jar」 Gallery Hyundai (ソウル、韓国)
- 2007年 特別展 大英博物館(ロンドン、イギリス)
- 2008年 展覧会 シアトル美術館(シアトル、アメリカ)

取材お問い合わせ・掲載用写真のご利用について

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、こちらに紹介されている作品を画像データでお貸し出しいたします。ご希望の場合は図版に を記し、下記申込用紙を返信のうえ、お問い合わせ下さい。

ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までご連絡下さい。画像は本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。



a. 朴英淑《白磁大壺》
2007年 高60.5cm



b. 李禹煥《染付皿》
径31.0cm



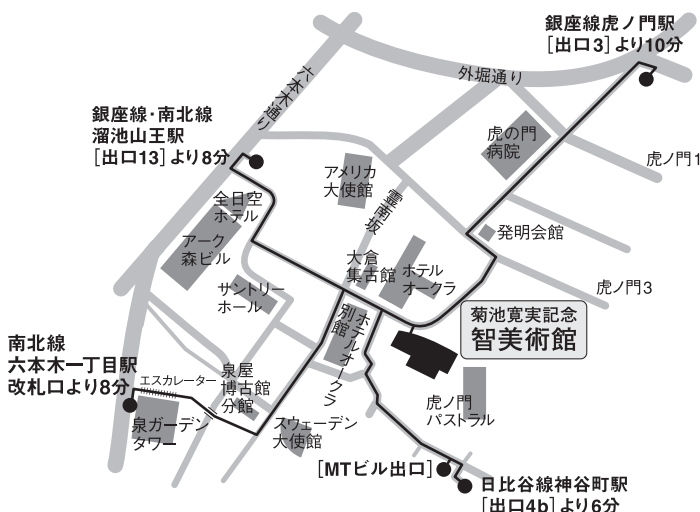
c. 朴英淑 食器



d. 朴英淑《白磁大壺》

申し込み用紙

貴社名:	
部署名:	担当者:
ご住所:	
TEL:	FAX:
Eメール:	
媒体 / 番組名(web の場合はURL を記入)	
発行・放映日等()	



交通のご案内

日比谷線「神谷町駅」出口4 bより徒歩6分

南北線「六本木一丁目駅」より徒歩8分
「溜池山王駅」出口1 3より徒歩8分

銀座線「虎ノ門駅」出口3より徒歩10分

菊池寛実記念 智美術館

<http://www.musee-tomo.or.jp>
〒105-0001東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル
TEL 03- 5733- 5131 FAX 03- 5733- 5132